駿河台大学 同窓会報
第9号
発行
駿河台大学同窓会
事務局
〒357－8555
埼玉県飯能市阿須698
☎(042)972－1101
ホームページ
http://www.surugadai.ac.jp/dousou/index.html.

平成17年度 同窓会総会実施報告

去る5月14日(土)、平成17年度同窓会総会が、ホテル海洋（新宿区百人町／ＪＲ新大久保駅より徒歩5分）にて開催されました。

総会は役員副会長の廣瀬尚氏（平成5年法学部卒）の司会のもと進められ、15時から約1時間行われました。竹下守夫学長からのご挨拶の中では、大学の近況についてのご報告や、会員の皆さんに「認証評価制度」への協力の依頼がございました。続いて冨岡勇哉会長（平成4年法学部卒）より、ご挨拶を頂き、議事に移りました。

議事では、冨岡会長が議長となり、各役員より平成16年度事業報告・収支決算報告・監査報告がございました。続いて、平成17年度事業計画及び予算案についての審議がなされ、最後に、昨年度から取り組んでおります「同窓会会員名簿」制作の進捗状況についての報告がございました。

ご出席頂いた会員から、「同窓会会員名簿」の作成についてのご意見やご提案がなされましたが、議案については異議なく承認されました。

総会終了後の16時より、別室にて懇親パーティーが開催され、会員及び教職員を含め約１００名の方が出席されました。さらに今年度は、全日本アンサンブルコンテストで見事銀賞に輝いた吹奏楽部の演奏もあり、後輩の活躍する姿に、会場が一段と盛り上がりました。会員たちは駿河台大学で過ごした日々を懐かしみ、旧友や恩師と思い出話に花を咲かせていました。

なお、今年も本誌記載の通り、駿輝祭開催に併せてホームカミングデーを開催します。当日は、映画監督井筒和幸氏によるトークショーや懇親会も予定しております。皆さんのご来場をお待ちしております（4面に続く）。

▲同窓会総会にて、冨岡会長のあいさつ

同窓会長あいさつ

会長　冨岡　勇哉

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまご紹介いただきました、同窓会長を務めております平成４年法学部卒業の冨岡でございます。

先程、竹下学長のお話にもございましたが、今、即戦力となる人材が、社会や企業から必要とされています。皆さんもお仕事をされていて切実にお感じになっているところがあろうかと思いますが、私も仕事上、最近よくそのように思うところがあります。また、「認証評価制度」も各所で話題になってきておりますが、第三者的に見た評価が必要な社会になりつつあるということも、非常に強く感じております。

様々な場面、例えばこのような同窓会の場におきましても、第三者から見た評価が必要なのではないでしょうか。私の個人的な考え方なのかもしれませんが、自己責任の問題として、自分の行いが、誰の目から見ても公正なものでないといけないのだろうと思います。それは社会、組織体、個人、皆そうなってくるのだろうと思われます。昔であれば、一旦ことが起きた時に腹を括ることができるような、懐が深く肝の据わった人間が必要でしたが、それ以外に、やはり自分自身の公正さが必要になってくるのだろうと思います。

ところで、どうしても自分一人では生きていくのが難しい時もあります。よく言われる事ですが、「人」という字はだれかとだれかが支え合って出来ています。これは例えば、ご結婚されている方であれば、奥様と、あるいはだんな様と支え合い、ご一緒に生活のことやお子さんのことを考えておられます。またお一人の方でいらっしゃれば、親御さんのことやご兄弟のことなど考えておられます。そういった中に、社会人として生きていく縁があるのかと思います。

大学という組織を単に卒業しただけではなく、竹下学長からのお話にもございましたように、卒業生が何らかの形で大学にフィードバックをしていくために、我々が大学という組織、同窓会という組織を盛り上げていくことは、大変重要なことだと思っております。その一環として、卒業生の名簿作成（個人情報保護法といった外的な要因もございますが）等の事業を、今後引き続き進めさせていただきたいと思っております。

皆さんのご協力をいただきまして、今年度もまた、更なる同窓会の発展に努めさせていただきたいと考えております。大変短い挨拶ですが、まずこの場はこれをもって代えさせていただきます。ありがとうございました。

▲懇親パーティの様子

「同窓会会員名簿」発刊のお知らせ

同窓会総会でもご案内致しました通り、昨年5月の同窓会総会で決裁をいただき、「同窓会会員名簿」の作成作業を進めてまいりました。会員の皆様には、ご多忙の中ご協力いただき、誠にありがとうございました。この度、9月上旬に発刊の運びとなりましたので、お知らせ致します。

「同窓会会員名簿」には、２００５年3月までの卒業（修了）生１３、７２２名のうち、掲載を希望した方約1、８００名の情報を掲載しております。掲載内容は、学籍番号・氏名・現住所・E-mail・電話番号・勤務先です。ただし、掲載を希望した方でも、情報の一部を不掲載希望とした方につきましては、その項目は空欄になっております。

この名簿は、同窓生相互の親睦・互助に、また同窓会活動活性化のための情報的基盤としてご活用ください。さらに、これにより現役学生に対するサポート（就職活動等）も促進されるものと期待されます。

先般、会員の皆様にお送りしました「発刊のお知らせ」の通り、購入希望の方は、同封の振込用紙にて代金（5、５００円／税・送料込み）をお振込みいただき、お申込ください。

なお、今後、ご住所・勤務先の変更、改姓等の異動があった場合は、当ＨＰの「住所等の更新」をご利用ください。新住所に同窓会報・総会案内等を発送させていただきます。

この度完成しました「同窓会会員名簿」の表紙

平成16年度同窓会収支決算報告書

（平成16年４月１日～平成17年３月31日）

駿河台大学同窓会

（収入の部）

（増減△は超過を示す。単位：円）

勘定科目	16年度予算額	決算額	増　減	備　考
前年度繰越金	186,224,901	186,224,901	0	
会　　費	18,990,000	18,625,000	365,000	3,499名分（新入生・２年生・３年生）
総会懇親会費	0	129,000	△129,000	総会懇親会参加費（3,000円×43名分）
受取利息	100,000	204,605	△104,605	定期預金利息204,470円、普通預金利息135円
収入の部合計	205,314,901	205,183,506	131,395	

（支出の部）

（増減△は超過を示す。単位：円）

勘定科目	16年度予算額	決算額	増　減	備　考
事　業　費	21,800,000	15,513,042	6,286,958	
同窓会会報作成費	900,000	499,905	400,095	会報６・７号分、HP用PDF作成費等
大学への卒業寄付	1,000,000	837,900	162,100	平成16年度卒業生分
ホームカミングデー実施費	1,500,000	1,430,000	70,000	
同窓会総会実施費	1,500,000	1,342,237	157,763	
地方支部会実施費	500,000	0	500,000	
同窓会奨学金	2,000,000	0	2,000,000	平成16年度該当者０名
ホームページ管理費	400,000	378,000	22,000	
同窓会名簿作成費	14,000,000	11,025,000	2,975,000	
運営事務費	2,450,000	1,730,284	719,716	
郵　送　料	2,000,000	1,532,572	467,428	同窓会報郵送費等
印　刷　費	250,000	104,443	145,557	総会出欠葉書作成費、卒業生住所届葉書作成費
雑　　費	200,000	93,269	106,731	振込手数料、会長印作成費等
予　備　費	1,000,000	108,150	891,850	
小計（当年度分計）	25,250,000	17,351,476	7,898,524	
次年度繰越金	180,064,901	187,832,030	△7,767,129	
支出の部合計	205,314,901	205,183,506	131,395	

平成17年度収支予算

（平成17年４月１日～平成18年３月31日）

駿河台大学同窓会

（収入の部）

（増減△は減を示す。単位：円）

勘定科目	17年度予算額	16年度予算額	増　減	備　考
前年度繰越金	187,832,030	186,224,901	1,607,129	
会　　費	24,000,000	18,990,000	5,010,000	
受取利息	100,000	100,000	0	
名簿収入	3,500,000	0	3,500,000	
収入の部合計	215,432,030	205,314,901	10,117,129	

（支出の部）

（増減△は減を示す。単位：円）

勘定科目	17年度予算額	16年度予算額	増　減	備　考
事　業　費	10,300,000	21,800,000	△11,500,000	
運営事務費	2,450,000	2,450,000	0	
予　備　費	5,000,000	1,000,000	4,000,000	
小　　計	17,750,000	25,250,000	△7,500,000	
翌年度繰越金	197,682,030	180,064,901	17,617,129	
支出の部合計	215,432,030	205,314,901	10,117,129	

同窓会支出予算項目内訳明細表

（平成17年４月１日～平成18年３月31日）　駿河台大学同窓会

「事業費」内訳

（増減△は減を示す。単位：円）

勘定科目	17年度予算額	16年度予算額	16年度実績額	備　考
同窓会会報作成費	900,000	900,000	499,905	年２回発行（450,000円×２）
大学への卒業寄付	1,000,000	1,000,000	837,900	平成17年度卒業生分
ホームカミングデー実施費	1,500,000	1,500,000	1,430,000	講演会経費等
同窓会総会実施費	1,500,000	1,500,000	1,342,237	
地方支部会実施費	500,000	500,000	0	
同窓会奨学金	2,000,000	2,000,000	0	
ホームページ管理費	400,000	400,000	378,000	
同窓会名簿作成費	2,500,000	14,000,000	11,025,000	H17.３～H17.４分翌月支払の為、17年度予算計上
計	10,300,000	21,800,000	15,513,042	

「運営事務費」内訳

（増減△は減を示す。単位：円）

勘定科目	17年度予算額	16年度予算額	16年度実績額	備　考
郵　送　料	2,000,000	2,000,000	1,532,572	会報等２回（1,000,000×２回）
印　刷　費	250,000	250,000	104,443	封筒・住所届出葉書等の印刷
雑　　費	200,000	200,000	93,269	振込手数料、役員交通費等
計	2,450,000	2,450,000	1,730,284	

「予備費」内訳

（増減△は減を示す。単位：円）

勘定科目	17年度予算額	16年度予算額	16年度実績額	備　考
予　備　費	5,000,000	1,000,000	108,150	
計	5,000,000	1,000,000	108,150	

前法学部教授　勝田有恒先生ご逝去

勝田有恒先生へのお別れのことば

法学部長　加藤紘捷

勝田有恒先生は、本年３月末に本学をご退職されたばかりで、今後は研究会等でお会いする機会を多くの法学部スタッフが楽しみにしておりました。にもかかわらず、ご退職後、わずか１ヶ月も経たない４月26日、突然肝臓ガンで病没されました。余りにも早い黄泉の国への旅立ちに、悲しむより先に驚き、口惜しい思いで一杯です。また、この４月から始まる自らの法科大学院の授業を楽しみに講義の準備を重ねて参られたと伺っていました。それを果せず、さぞご無念であったであろうと拝察しております。

先生は、一橋大学をご定年退職の後、平成７年４月、駿河台大学比較法研究所教授（西洋法制史）として入職されました。翌平成８年４月に法学部教授を歴任され、本年平成17年３月末にて定年ご退職されるまで、10年間本学に在職されました。その間、先生はたえず大学の要職に就かれ、本学の発展にご尽力頂きました。ご赴任の後、平成12年３月末まで５年間は比較法研究所長兼国際交流委員長の任に就かれ、交換留学制度、派遣留学制度を纏め上げられましたし、平成11年４月から平成14年３月までは大学院法学研究科長として専修コースを軌道に乗せ、大学院史の中では稀有というべき学内外から院生を集めることに成功し、大学院史に輝かしい足跡を残して下さいました。

加えて、先生は、法学会学会誌である「駿河台法学」に年来のご研究テーマである「談合と法文化摩擦」など優れた研究業績を残して下さいました。

これらの足跡とともに、忘れてならないのは、よく人の話を聞き、困っているならば知恵を貸してくださり、親身に相談に乗ってくださる誠に気さくな先生でした。そういうこともあり、大学というややもすれば堅苦しい職場に先生は明るく人情味あふれる雰囲気を植えつけていって下さいました。それだけに、先生は多くの方々に慕われ、頼りにされました。感謝とともに、今はその肩の荷を下ろされ、静かにお休みください。合掌。

2006年4月 文化情報学部 コンテンツデザインのための メディア情報学科 新設

新しい時代に対応した専門コース

2006年4月より、文化情報学部知識情報学科が新たに「メディア情報学科」に生まれ変わることになりました。これにより、文化情報学部は、文化情報学科とメディア情報学科の2つの学科から構成されることになります。

メディア情報学科では、コンピュータを使用して、映像や音、文字などの一次的情報をマルチメディア化し、それをコンテンツとしてデザイン・編集するための技術を学ぶことができます。そのための専門コースとしては、「映像音響メディアコース」と「情報デザインコース」とが設定されます。

また、これに併せて、文化情報学科のほうもその内容を大きく変更します。現在、知識情報学科で教えられている図書館や文書館に関する内容が文化情報学科に移され、観光資源を含めた文化的情報資源の蓄積・提供が新たにその中心テーマとなります。設置される専門コースは「観光サービスコース」「図書館情報メディアコース」「アート&アーカイブズコース」の3つです。

つまり、現在の文化情報学部の両学科における専門コースが相互的に組み換えられ、文化情報学科／メディア情報学科という枠組みで新たに整理しなおされるわけです。文化情報学部では、この整理・再編によって、新しい時代に対応した「情報メディエイター」を育成していくことになります。

▶「メディア情報学科」紹介パンフレット

メディア情報学科のねらい

それでは、なぜ、このような組み換えが必要になったのでしょうか。

その直接の原因は、インターネットやマルチメディア技術の発展です。従来の情報発信は主として出版社や新聞社、テレビ局、ラジオ局などによってなされ、図書、新聞、映像・音響資料といったかたちで流通・蓄積されてきました。しかし、インターネットの発展により、現在では、一般の人々でもウェブを通じて手軽に情報発信できるようになっています。情報の発信・流通のしくみが、インターネットの登場以降、大きく変わってしまったわけです。

もちろん、現在の文化情報学部が、このような状況に対応していないわけではありません。実際に、インターネットやマルチメディアに関する科目がいくつか開講されています。しかし今回、学部の教育理念を世の中の状況に適切に合わせ、より充実したカリキュラムを提供するための土台をつくるために、あえて学科の改組に踏み切ったわけです。メディア情報学科がつくられたねらいはここにあります。

「つくる」と「ためる」

この結果として、メディア情報学科が「情報をつくる」、文化情報学科が「情報をためる」という側面を中心に、カリキュラムを再編成することになります。この役割分担は「フロー」と「ストック」として特徴づけることも可能かもしれません。情報をデザインして発信する部分がメディア情報学科、それらを蓄積して提供していく部分が文化情報学科という役割分担になります。

情報メディエイターの育成を目指して

文化情報学部では、21世紀の情報社会の状況に適応した情報専門家を「情報メディエイター」と呼び、1994年の学部発足以来、その育成に努めてきました。情報メディエイターには、博物館や美術館などの学芸員、図書館員、文書館員、組織の記録管理担当者、システムズ・エンジニア(SE)、プログラマーなど、現実の社会で活躍する人材が幅広く含まれています。さらに、メディア情報学科の発足により、放送番組制作者や情報デザイナー、エディターなどの人材育成にも一層の充実が図られることになります。

世の中の情報環境は日々刻々と変化・発展しています。それに応じて、情報専門家の育成プログラムにも常に手を加えていかねばなりません。今回の学科改組はそのような問題に対する方策のひとつです。今後は、「つくる」と「ためる」の両方の観点から、新たな情報環境に対応しうる情報専門家を育てることが、文化情報学部の目標になっていくわけです。

文化情報学部の新たな学科構成

学科名	専門コース	主たる教育内容
文化情報学科	観光サービス	観光サービスと観光情報の提供
	図書館情報メディア	図書館による情報の収集・蓄積・提供
	アート＆アーカイブズ	芸術文化を中心とした記録・史料の管理
メディア情報学科	映像音響メディア	映像論、音響論、メディア論
	情報デザイン	情報やコンテンツの編集・デザイン

駿河台スポーツニュース

■カヌー部　野々宮君　日本代表へ

野々宮　賢治君
（比較文化学科４年・徳島県立那賀高校出身）

―日本代表入りした感想を

凄く嬉しいです。

―２年前にも選ばれましたが

あの時は、主に前年度の日本選手権の結果で選ばれましたが（日本選手権で優勝、ジャパンカップは7位、今年はトータルの成績が評価された点で嬉しいです。前回は、日本で一番難しいと言われる井田川のコースで行われたジャパンカップでふるわなかったのですが、今回は同じコースで3位となり、借りを返せました。

―代表として今後は

7月に韓国で行われるアジア選手権大会、さらに、秋にオーストラリアのペンリスで開催される世界選手権大会に出場します。

―目標は

アジア選手権では、表彰台に立ち、世界選手権では予選を突破し、セミファイナルまで行きます。

7月に韓国で行われたアジアカヌースラローム選手権大会では、C-1チームレースで見事優勝（2位台湾、3位イラン）、個人種目では第4位の成績を修めました。今後の更なる活躍が期待されます。

■剣道部　男女とも関東大会(個人戦)で第3位

第51回関東学生剣道選手権大会(男子個人)、及び第37回関東女子学生剣道選手権大会(女子個人)において、楠聡君(経済学科3年・私立日本航空高校出身)と牛之濱香さん(法律学科3年・私立東京成徳大学高校出身)が共に第3位となりました。さらに、嶋田貴文主将(法律学科4年・私立本庄第一高校出身)が4回戦に進出、これにより、3名が第53回全日本学生剣道選手権大会に出場することとなりました。

牛之濱さんの話…さらに稽古に励み、全日本大会では、悔いの残らない戦いをします。とにかく初戦を突破します。

楠君の話…全日本大会では、関東代表、大学代表の名に恥じぬよう頑張ります。目標は嶋田先輩に決勝で勝ち、優勝することです。

嶋田君の話…波多野登志夫師範や諸先生方から受けた4年間の教えを、全日本大会では全て出し尽くして来ます。楠君には負けません。必ず勝って優勝します。

10月29日(土)

駿輝祭と同日開催

ホームカミングデー開催のお知らせ

変わらない駿大・変わりゆく駿大を感じてください!

社会に出ると、ふとしたときに大学を思い出し、懐かしくなることはありませんか？会員のみなさんが、気軽に母校に集まっていただけるよう、本年度も駿輝祭に併わせて、10月29日(土)にホームカミングデーを開催します。ホームカミングデーでは、映画監督井筒和幸氏によるトークショーのほか、同窓会懇親会を行います。今年で４回目を迎え、昨年度は約200名の出席があったように、回を重ねる毎に好評を得て、遠方からも多数の参加を頂いております。大学時代のお友達と連絡を取り合って、またはご家族と一緒に、お父さん・お母さんになられた方はお子様もご一緒に、母校を訪れてみてはいかがですか？大人から子どもまで楽しめるイベントも数多く開催されております。学生時代と変わらない駿大を、そして時代とともに変わりゆく駿大を、皆さんの目で感じてください！

◆井筒監督トークショー

映画監督井筒和幸氏によるトークショー『映画と私』を開催します。参加費は無料です。ご来場をお待ちしています。

時間：13：00～14：00

場所：第二講義棟４階　7405教室

会費：無料（先着順）

◆ホームカミングデー懇親会

時間：15：00～16：30

場所：第二講義棟15階
　　レセプションルーム

会費：無料

※当日は、飯能・元加治・金子駅から無料スクールバスが循環運行しておりますのでご利用ください。お車でご来場の場合、駐車台数に限りがあり、大学近辺の駐車場をご案内する場合がありますので、予めご了承ください。

入間プロジェクト報告①

現代GP　学生いきいき、大学もいきいき

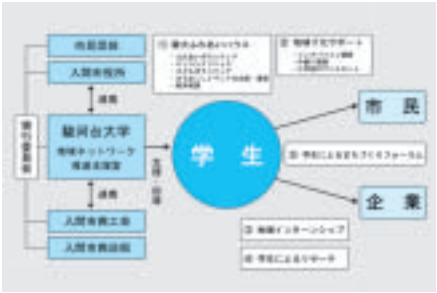
実行委員会委員長・経済学部長　鎗田英三

文部科学省は、大学教育改革への優れた取組を選定し重点的な財政支援を行っていますが、この度本学が申請した全学部対象の「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」と、法科大学院対象の「法学初学者学習支援システムの開発」の２プロジェクトが採択されました。

「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」（入間プロジェクトと略す）が、平成16年度から開始された〝大学教育のオリンピック〟ともいうべき文部科学省の「現代的教育ニーズ取り組み支援プロジェクト」に平成16年９月末に採択されました。全国559件の応募の中から86件のみが選ばれるという超難関を突破したのです。このプロジェクトへの高い評価もあって、本学は名誉にも『東洋経済』（2004年10月９日特大号）で全大学中「人材創出力のある大学」のベスト49位にも選ばれました。

入間プロジェクトの目的

これまでの大学では、大学の教員による教室での知識の伝授が中心におかれ、社会性や職業観の涵養は等閑視されていました。それゆえ、それらを養うためには大学の外の社会を教室にし、社会のさまざまな職業・年代・考えを持った人たちを先生とし、知識ではなく生活・人生を体感させる教育（アウト・キャンパス・スタディ）が必要になりました。そこで、入間のまちを「教室」とし、地域の人たちの教育力を活用し、学生たちに「やさしさ」や「生きる力」を身につけることを目的として入間プロジェクトを立ち上げました。具体的には、大学で学んだ知識、パソコンなどの技術を活用することによって、能力アップがはかれるだけでなく、いろいろな企画・運営やリサーチを通して考える力やいろいろな人との交流によるコミュニケーション能力が増すことが期待されています。



このプロジェクトのもう一つの目的は、大学の地域貢献です。地域の人びとに開かれた大学として地域の社会、経済、文化に貢献するのが大学の使命と考えられるようになっています。まさに、入間プロジェクトは、地域と大学の共生を実現する有力な方法です。朝日新聞では、駿大ふれあいハウスが、『「街の役に」学生輝く』との見出しで、「学生が得意なパソコンを中高年に教えたり、地元のお祭りに学生が企画をたてたりしており、入間市のまちづくりに新たな刺激を与えている。」（2005年４月９日）と紹介されたほどです。

入間プロジェクトの特徴

このプロジェクトのユニークな点は、第一に、産・官・学の連携の下、市民活動団体や商店街が一体となって進められていることです。本学と入間市役所・入間市商工会は、このプロジェクトのためにパートナーシップ協定を締結しました。

入間プロジェクトの組織と活動を図示すると上図のようになります。

第二に、本プロジェクトでは、入間でボランティア、インターンシップなどいろいろな活動をすると、「まちづくり実践」、「インターンシップA」、「インターンシップB」などの単位を修得することができるのも大きな特徴です。単位を与えることは、いろいろな地域での活動を大学の正規の教育の一環として認めることであり、「生きる力」を身につけさせる教育を大学が重視していることの現れです。

次回の『同窓会報』では、この「入間プロジェクト」の具体的な取り組みや、内容についてご報告する予定です。お楽しみに。